

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① とうきようと
の けさ
の きおん
。

② きょう
は、 あつく
もなく、 さむく
もない。

③ ざん
残 □ しよ
がまだまだきびしく、 たいちよう
が わるい
。

④ かんき
冬の □
におおわれる。

⑤ あたたかい
スープをいただく。

⑥ むかし
□、 みやこ
は きょうと
にあつた。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

かれ なげ た
① 彼が□その□が□を□。
めい あん わ け た

かれ なげ る た ま
② 彼の□はとても□、こ
とができない。

だ し や
③ □は、□情でベンチに□。
く ら い ひ よ う じ よ う か え っ て
い っ た 。

え ん と う
④ □とは□に□ことです。
と お く なげ る

お お し ま ゆ き
⑤ 大島行きの□は、□を□。
ふ ね そ く ど あ げ た

か

おく

き

送りがなにも気をつけましょう。

さけ

うんてん

してはいけない

ということです。

ころんで

しまった。

はこぶ

○

ぞいをサイクリングする。

うんどう

した。

つぎ ぶん 次
の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく き 送りがなにも気をつけましょう。

① はは は、 はんたい がわの ほどう を あるいて います。

② ばん ビート を もとの ばしよ に かえす 。

③ いえ の ちかく の さか は、 とても きゅう です。

④ いぬごや を つくる ために いた を かって き ました。

⑤ げつようび この の ほん の へん きやく び は、 らいしゅう の ます です。

つぎ ぶん 次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく 送りがなにも気をつけましょう。

① ギョウザの を 。

② を ために にならぶ。

③ この は、わたしには ます。

④ なみうち ぎわにずっといたから ひ ふが あかく なった。

⑤ たいふう が ちかづき、 は ろう ちゅうい ほうが でた。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① しよくぶつ
□が、はたけ
□にね
□をはっている。

② は
□がおいしげっている。

③ はたけ
□にだいこん
□をうえる。

④ やま
□の木々がみごとにこう
□よう
している。

⑤ おにぎりで、もの
□かげにかくれる。

国語 三十七 (書き)	第三学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

つぎ ぶん 次
の 文 の に 当 て は ま る 漢 字 を 書 き ま し ょ う 。

おく 送り が な に も 気 を つ け ま し ょ う 。

① だい す き な し を 、 お ぼ え て い る 。

② も っ て き た あ め を ひ と し く わ け る 。

③ ち ょ う し が よ く な る ま で 、 し ず か に ま っ 。

④ ど れ く ら い う ご き を じ ぞ く で き る か し ら べ る 。

⑤ こ う え ん で か け つ こ を し て い つ と う に な る 。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

あぶら
① であげるのには□がある。

きてき
② □を□。

じんじや
③ この□の□を□。

ゆ せい
④ □性ペンで□に□を□。

やくしよ
⑤ □に□告のとどけをだす。

かみさま
⑥ □にいのる。

たいかい
⑦ □へのさんかを□。

もうしこむ

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① その じゅうしよ
□ はあの でんちゅう
□ の さき
□ です。

② □ くらい
□ ので、 はしら
□ に ちゅうい
□ して あるき
□ なさい。

③ □ おも
□ な とうじようじんぶつ
□ 。

④ □ ひ
□ に あぶら
□ を そそぐ
□ 。

⑤ □ かんぬし
□ が すむ ところ
□ 。

⑥ □ じしゆ
□ 的 てき
□ に しらべて
□ いる。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく き
送りがなにも気をつけましょう。

① この□みずうみ
はとても□ふかい。

② □しんや
に隅田川の□かりゆう
に□ついた。

③ □かわ
の□ながれ
が□はやい
ので□およいで
はいけない。

④ 奥多摩□おくたまこ
に□こおり
がはる。

⑤ □ひょうざん
を□みた
ことがある。

⑥ □きよう
の□たいいく
は□すいえい
です。

つぎ ぶん 次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく 送りがなにも気をつけましょう。

① ひつじ の ようす を みにいく。

② とても うつくしい おひめ さま でした。

③ び じゆつ かん に いく。

④ この ようものが の セーターは、はだざわりがよ
く、 しあわせ な きもち になる。

⑤ たいへいよう じかん な じかん をすごした。 しま で、とても けうふへ

国語 三十二 (書き)	第三学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

つぎ ぶん 次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく 送りがなにも気をつけましょう。

① まみなみ の ほうこう の そら を しゃしん におさめる。

② まん いん でんしゃ に のる。

③ どうぐ をうまく つかえず、 ふ しょうした。

④ トウキョウダルマガエルを そだてる。

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。
かんじ か

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① かぞく
 で の すいじょう
バスに のる。

② お いしや
さんにみてもらう。

③ じかい
の たいいく
のじゆ ぎょう
は、 てつ
ぼうです。

④ じぶん
の たんしよ
はよくわかっている。

⑤ だんだん ひ
が みじかく
なってきた。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① びょういん
□で じゆ
□しんする。

② こがねいこうえん
小金井公園について □ しゆざい
材する。

③ かんじ
□テストを うける
□。

④ けい
□かいなフットワークでボールを とった
□。

⑤ ぶん かさい
□で、 おうじ
□の やく
□をすることになった。

⑥ おもった
□よりも かるかった
□。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

ほん ととのえた
① □を□ら、そうじは□おわり
です。

しゅう ま
② □りよう□ぎわにお□きやく
さんが□きた。

どうろ は おちて
③ □にイチョウの□が□いた。

ほう ご そだてた の はなした
④ □か□に、□チョウを□に□。

らっか き せいれつ あるき
⑤ いしの□に□をつけて、□して□
ましょう。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① あまりのこわさに ひめい
をあげる。

② あいて の かなしみ を かんじる ところ
。

③ みらいの とうきょう を そう
ぞうする。

④ きゅうそく をとって、 いき を ととのえる
。

国語 三十七 (書き)	第三学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく き
送りがなにも気をつけましょう。

① はは びょうき
□が□だったので、かわりに八百屋

さんに □ かいもの に □ いった。

② やまい き
□は□から。

③ にわ こ
□にそう□がある。

④ おくじょう こうてい
□から□をながめる。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

①
じつ けん で けんきゅう に とりくむ
□ けん で □ に □

②
かき み かしら まもる
柿の□をカラスから守る。

③
しゅ び あんしん
□ 備がよいので □ だ。

④
きょう とう やすい
□ は、 なつ □ が □ 。

国語 三十九 (書き)	第三学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

つぎ ぶん 次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく 送りがなにも気をつけましょう。

① あたらしい はまるで 館のようだ。

② の をれんらく に 。

③ でんのような にとまった。

④ お まいりに かける。

⑤ ピントを 、 をとる。

国語 三十二 (書き)	第三学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
-------------------	-------------	----	---	---	---

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

つぎ ぶん 次
の文の□にあてはまる漢字かんじを書きか
ましよう。

おく 送りがなにも気きをつけましよう。

① せかい 世界
を たび たび
する。

② しんぶん しんぶん
を よん で
よ の なか
のできごとを
しる 。

③ かぞく かぞく
で おおしま
へ りよう
に いく
。

④ にほんれつとう にほんれつとう
には、 おおく
の とり
が いる。

⑤ かいがん かいがん
ぞい に、 むこう
の きし
まで あるく
。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① はな ち でた
□ から □ が □ 。

② じ び か いく
□ に □ 。

③ しんちよう たいじゆう けつ かく
□ 、 □ えきがたを □ 。

④ は み じ た く お わ る
□ をみがけば、身支度が □ 。

⑤ けん し ゆ び
□ を □ でさわってみる。

⑥ お ち し
□ に □ もんがついている。

国語
三十二
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① せんしゆのかつやくに きたい
□ している。

② しんぱい
□ ごとを そうだん
□ する。

③ あいて
□ のことを かんがえて こうどう
□ する。

④ しんぶん
□ が はい
□ たつされた。

⑤ めんだん
□ の てがみ
□ を くばる
□ 。

国語 三十一二十三 (書き)	第三学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

つぎ ぶん 次の文の □ に当てはまる漢字を書きましょう。

おく 送りがなにも気をつけましょう。

① □ 序は、 □ □ □ に
とうきようとちよう しんじゅくく にししんじゅく にちようめ
ある。

② □ の □ 岡 □ から □ 。
きゅうしゅう ふく おか けん きました

③ □ お ふを □ □ に □ 。
とう にちよう かい いく

④ □ れいをかける。
い

⑤ □ お ふは、 □ という □ から □ 。
とう だいず まめ つくられる

国語 三十一二十四 (書き)	第三学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

つぎ ぶん 次の文の □ に当てはまる漢字を書きましょう。

おく 送りがなにも気をつけましょう。

① □ はし をわたると浅草 □ えき が □ みえて くる。

② □ みなと の □ ちかく にあるゆうびん □ きよく 。

③ □ にほんばし ゆき のバスに □ のる 。

④ □ じょうせん した □ ふね が、小笠原 □ おがさわら に □ むけて □ しゅつこう した。

⑤ □ ほうきよう を □ つかって □ はんたい がわに □ いく 。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

おう
① □ だん □ ほど
をわたる。

こうてい
② □ の □ ちゅうおう
を □ むく
。

すすむ ほうこう
③ □ □ を □ きめる
。

しんろ
④ □ を □ けつてい
する。

よこ
⑤ □ にもつを □ に □ うごかす
。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① うた れんしゅう
□の□をする。

② あそぶ
□ときのリールを□がつきゆうかい
で□きめた
。

③ ゆうえんち
□で□あそぶ
。

④ さく
□せんを□ねる
。

⑤ おどりを
□ならう
。

⑥ なつやすみ
□は、□あさ
のうちに□べんきよう
した。

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① じゆ ぎよう が おわった ら、 としよいいん は

あつまって ください。

② かけり の しごと が おわった 。

③ おう に つかえる 。

④ としよかん で ほん を よむ 。

⑤ しゅうかい にかん けい のある ひと は しゅうごう して ください。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

①
へいわ
をねがう。

②
しき
をたてて、
なんばい
になるかを
けいさん
する。

③
たいら
な
めん
を
うえ
にする。

④
もんだい
が
たくさんある。

⑤
とい
と
こたえ
。

つぎ ぶん 次
の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく 送り
がなにも気をつけましょう。

① これはゆうめいな が
アノです。 さつきよくか つかった ピ

② わたしは に 、そのばから
さった。

③ このおもちゃは きよねん しよう
やんと うごいた。 したときはち

④ 過 か こ の ほうそう
をふり かえる。

⑤ まがりがど まで おくる。

国語
三十三
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前
年 組 番

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① おもい にもつ
を 背 せ おう
。

② おきて
すぐに たいじゅう
をはかる。

③ きりつ
をして あさ
のあいさつをした。

④ りようほう
の はこ
を あける
。

⑤ こばこ
をつみ かさねる
。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① □ むかし は すみ で ひ をたいて ゆ をわかした。

② せん とう のおふろは ひろくて きもち がいい。

③ □ せきたん を はこぶ のに く ろうした。

④ □ くるしそう だったので、 たすけ にいった。

⑤ □ にがい くすり を のむ 。

⑥ いきおいをつけるために □ じよそう をとる。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① その□の□は、□に□。
ぎん さら しょうわろくじゅうねん つくられた

② □の□が□。
だいごじゅつかい うんどうかい はじまった

③ □の□を□いる。
かいし あいず まって

④ ドアを□。
あける

⑤ □のページを□。
だいいつしやう ひらく

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

ぶひん
① がなくならないように する。

へや
② の に がたくさんある。

しなもの
③ を に 。

しんで
④ かぶとむしが しまった。

あきない
⑤ がうまくい。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

たいよう
① 太陽がのぼった。

おい
② おばけにかけられるゆめをみた。

かせき ひろった
③ □をたまたま□。

りよう
④ りようを□。かする。

れい てがみ かく
⑤ おの□を□。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① ひつ
□ じゅんを しらべる
□。

② くん
よしの □ は ふで
□ の □ つかいかた
がうまい。

③ ぴつ
えん □ と けし
□ ゴム

④ きみ
□ は なんびよう
□ で ぜんぶ
□ の □ もんだい
□ をとけますか。

⑤ すべて
□ の □ みず
□ をつかって ひ
□ を しようか
□ した。

国語
三十二十六
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

のうさぎよう
① をして、あせを 。

じ どう
② 児 が する。

たかおさん
③ 高尾山に 。

かつ もの
④ もいれば もいる。

しょうしや
⑤ オリンピックの 。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① この□の□はとても□。
くすり あじ にがい

② □には、□がたくさんある。
りかしつ やくひん

③ □にはどんな□があるか□。
ほか いみ しらべる

④ □の空似。
たにん そらに

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① いのち
□の□たいせつ
さをしる。
。

② ぐうぜんのさいかいに うんめい
をかんじる。
。

③ こうたい
□でへやの□おもて
にでる。
。

④ しらべた
□けっかをひょう
にあらわす。
。

⑤ ともだちの かわり
に しゅつ
せきする。

つぎ ぶん 次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく 送りがなにも気をつけましょう。

① みどり いろの を 。

② しゅっぱつ してしばらくすると、れっしやは の やま の なか に はいった 。

③ かけっこで いっちやく になった。

④ ゆうめい な かいじよう でピアノの はっぴようかい を する。

⑤ ある な か無いか、かくにんする。